



新入社員を含む 20 代から 30 代のビジネスパーソン 300 人に聞いた

「今どき “会社飲み” 実態調査」

「ダラダラ」の象徴、“会社飲み”にも時短の波？

**意外にも 20～30 代若手社員の過半数が “会社飲み” 好きだが、
「安く」「駅チカ」「短時間」の “時短飲み” がイマドキの会社飲みの条件。**

マーケティングリサーチを行う株式会社ネオマーケティング（所在地：東京都渋谷区）では、世の中の動向をいち早く把握するために、独自で調査を行っております。今回、2013 年 5 月 16 日(木)～5 月 20 日(月)の 5 日間に、お酒を飲むことのある 20～30 代のビジネスパーソン 300 人を対象に「会社飲み」をテーマにしたインターネットリサーチを実施いたしました。

全体総括

会社関係の人づきあいを嫌がり、アルコール離れと言われる今どきの若者世代。彼らの仕事の付き合いにおける“会社飲み”の実態はどうなっているのかを探ってみました。

●基本の飲み方 サクッとヘルシーに、コスパよく飲みます

まず、お酒の飲み方としては、「あまり長居せずに帰りたい」（58.0%）、「ダラダラ飲み続けるのは格好悪い」（48.0%）、「程よいところでしめる（終わらせる）のがよい飲み会だと思う」（94.0%）と、サクッと飲んで帰る“サク飲み”意向が高いようです。また、「飲み代は出来るだけ安く済ませたい」（86.4%）、「安いからと言っておいしくないお酒は嫌だ」（83.7%）と、安さと質の両立も重視されています。そして「太らないようにお酒の種類を選んでいる」（37.3%）、「健康を考えてお酒の種類を選んでいる」（42.4%）と健康志向も一定の支持を得ており、ヘルシー志向も見られます。

●実は大好き会社飲み でも、スマートな時短飲みが理想です

“会社飲み”について見てみると、「会社の人に誘われたら飲みに行きたい」（56.0%）し、「会社の人飲みに行くのは好き」（50.4%）と半数以上が答えており、会社飲みが好きと答えた人では、5 人に 1 人が「週 1 回以上」（21.1%）会社の人と飲みに行くと考えています。また、会社飲みは「会社の人と親しくなれる」（64.7%）、「仕事上でもコミュニケーションがとりやすくなる」（56.3%）など、全体の約 9 割が「何らかのメリットがある」（89.0%）と感じており、2013 年度入社の新入社員でも「会社の人との飲み場は役に立つ」（84.0%）、「会社の人に飲み誘われたらうれしい」（76.0%）と歓迎モードで、会社関係の人づきあいを嫌がる気配は感じられません。とはいえ、「できれば 1 次会で帰りたい」（79.3%）し、「できるだけ短時間で済ませたい」（73.6%）から、「さっと帰れる駅の近くで」（89.7%）飲むのが理想。かつてのサラリーマンのように、何軒もはしごして「記憶がなくなるので泥酔するのは格好悪い」（89.0%）とぼっさり。スマートな時短飲みが若手ビジネスマンの会社飲みスタイルのようです。

●サラリーマンのアフター5は「とりあえずビールで乾杯」は過去の風景に？

サラリーマンの飲みスタイルといえば、「とりあえずビール」がお約束でしたが、今どきのビジネスマンは約 4 割が「とりあえずビール派ではない」（36.9%）と宣言。2013 年度入社の新入社員では約半数が「とりあえずビール派ではない」（49.0%）と答え、3 人に 1 人は「ビール派ほとんど飲まない」（32.0%）と、ビール離れが進んでいます。

●「すっきり」、「飲みやすく」、「食事に合う」のが若手社員のお酒の好み。

お酒選びの重視点は「飲みやすい」（25.0%）、「すっきりした飲み口」（16.0%）、「食事に合う」（14.0%）の順で、すっきり飲みやすい食事に合うお酒が求められているようです。



今どきの“飲み”は「サクッと短時間」「コスパよく」そして「健康」がキーワード。

若者の最近の飲み方の傾向として「あまり長居せずに帰りたい」(58.0%)、「飲み代は出来るだけ安く済ませたい」(86.4%)、「安いからと言っておいしくないお酒は嫌だ」(83.7%)、「健康を考えてお酒の種類を選んでいる」(42.4%)といった回答が上位に挙がりました。

お酒の好みは「スッカリ」「飲みやすい」「食事に合うこと」。

約4割が「とりあえずビール」じゃない派、新入社員の3人に1人が「ビールを飲まない」。

若手社員のお酒の好みで上位に挙がったのは、「スッカリ」「飲みやすく」「食事に合うこと」などでした。その傾向を反映してか、約4割(36.9%)が一杯目にビールを頼まない「とりあえずビール」じゃない派」と回答。新入社員の32.0%は「ビールをほとんど飲まない」と、そもそもビールを飲みません。「味が好みではない」「お腹にたまる」「食事に合わない」のが飲まない理由です。

意外にも若手社員の過半数(50.4%)が“会社飲み”好き！

ただし泥酔するまで飲むのはNG。「安く」「駅チカ」「短時間」な時短“サク飲み”が条件。

クールでプライベート重視というイメージの強い若手社員ですが、意外にも過半数(50.4%)が「会社飲みが好き」と回答。一方で「“会社飲み”はできるだけ短時間で済ませたい」(73.6%)、「出来れば1次会で帰りたい」(79.3%)、「できるだけお金をかけたくない」(89.3%)、「駅に近いなど、さっと帰れる場所で飲みたい」(89.7%)など、泥酔するのではなく、スマートな会社飲みを志向する傾向が強いことが分かりました。

“会社飲み好き”ほどヘルシーなお酒を選ぶ傾向が。

ヘルシーを最重視するのは、女性よりも20代男性！？

会社飲み好きと回答した人は、飲みに行く頻度が高いためか、「太らないこと」や「健康」を考えてお酒を選んでいきます。性年代では20代男性が「健康を考えてお酒を選ぶ」など、女性よりもヘルシーを最重視するという意外な傾向も見えました。

新入社員の94%が“会社飲み”のメリットを実感。「会社の情報」「仕事の失敗・成功談」を聞きたい。先輩の話なら、愚痴やプライベートの話も歓迎！？ 会社の人と飲みに行くメリットは、「会社の人と親しくなれる」(64.7%)、「会社では話せないことが話せる」(48.7%)など様々。新入社員は「飲みに誘ってもらおうれしい」(76.0%)。「社内の人の仕事の情報」、「新人の頃の失敗・成功談」といったビジネスに役立つ話に加え、「仕事の愚痴」も4人に1人(23.0%)、さらには「プライベートの悩み事」も約4割(38.0%)と、一見会社飲みでは敬遠されそうな話題もアリという人が意外に多いという傾向が明らかになりました。

<調査背景>

暑くなるこれからの季節、会社帰りに飲みに行く頻度も増えそうです。会社関係の人づきあいを嫌がり、アルコール離れが言われる今どきの若者世代。彼らの仕事のつきあいにおける“会社飲み”の実態はどうなっているのか、「今どき“会社飲み”実態調査」を行いました。報道の一資料として、ぜひ、ご活用ください。

【調査概要】

1. 調査の方法：株式会社ネオマーケティングが運営するアンケートサイト「アイリサーチ」のシステムを利用したWEBアンケート方式で実施
2. 調査の対象：アイリサーチ登録モニターのうち、お酒を飲むことのある20～30代のビジネスパーソン(新入社員100名、20代100名、30代100名)を対象に実施
3. 有効回答数：300人
4. 調査実施日：2013年5月16日(木)～5月20日(月)

お酒や“飲み”への考え方

今どきの“飲み”は「サクッと」「コスパよく」そして「ヘルシー」がキーワード

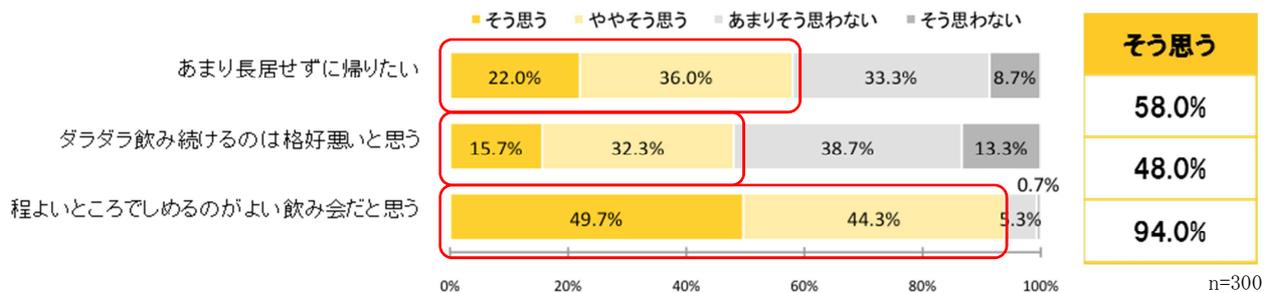
20代男性は「ヘルシーさ」を最重視!?

まず、お酒を飲むこと全般についての考え方を聞いてみました。すると、「あまり長居せずに帰りたい」(58.0%)、「ダラダラ飲み続けるのは格好悪い」(48.0%)、「程よいところでしめる(終わらせる)のがよい飲み会だと思う」(94.0%)と、サクッと飲んで帰る“サク飲み”意向が高いことが分かりました【グラフ1】。

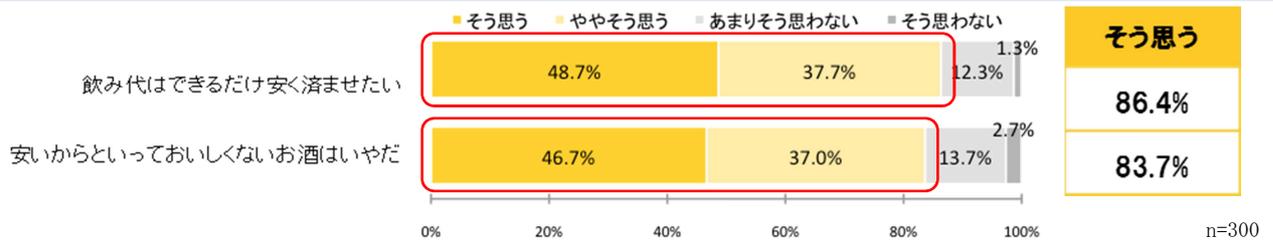
また、「飲み代は出来るだけ安く済ませたい」(86.4%)、「安いからと言っておいしくないお酒は嫌だ」(83.7%)と、安さと質の両立も重視されています【グラフ2】。

そして「太らないようにお酒の種類を選んでいる」(37.3%)、「健康を考えてお酒の種類を選んでいる」(42.4%)と健康志向も一定の支持を得ており、特に20代男性は「健康を考えてお酒の種類を選んでいる」(47.0%)が全年代の中でも最も高く、女性以上にヘルシーさを強く求めているようです【グラフ3】。

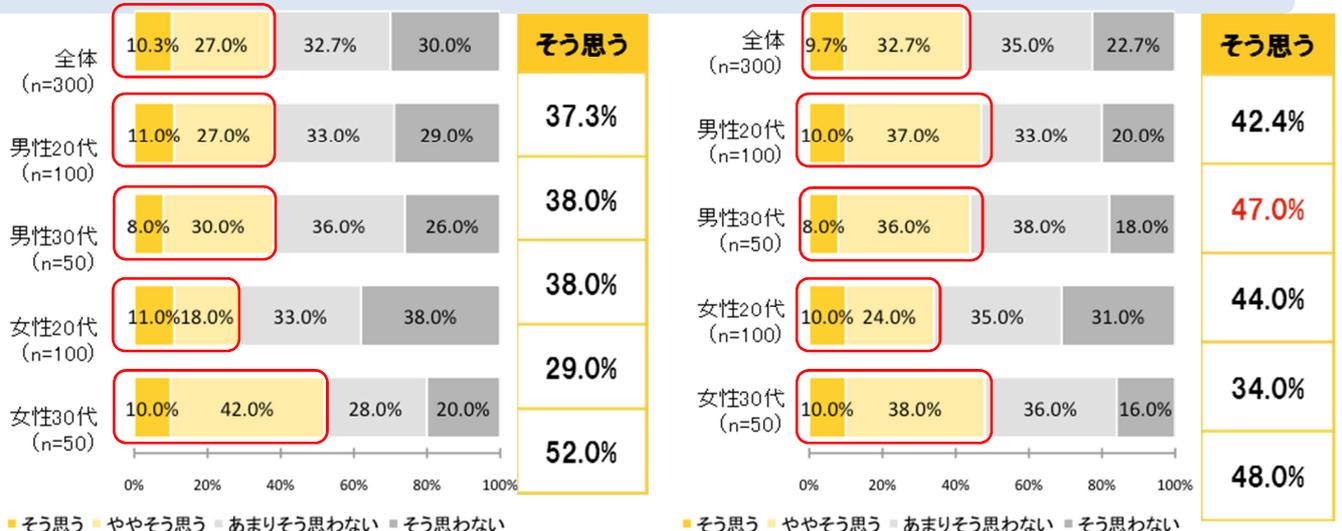
【グラフ1】 飲みに行くことについての考え方ーサク飲み志向



【グラフ2】 飲みに行くことについての考え方ーコストパフォーマンス <Q1-1, 7>



【グラフ3】 飲みに行くことについての考え方ーヘルシー志向 <Q1-14, 15>



“会社飲み”への考え方

意外にも、過半数が“会社飲み”が「好き」(50.4%)で「行きたい」(56.0%)
好きな“会社飲み”も、「安く」「駅近」「短時間」の“サク飲み”志向
仕事も時短派が8割で、“サク飲み”志向の背景か?

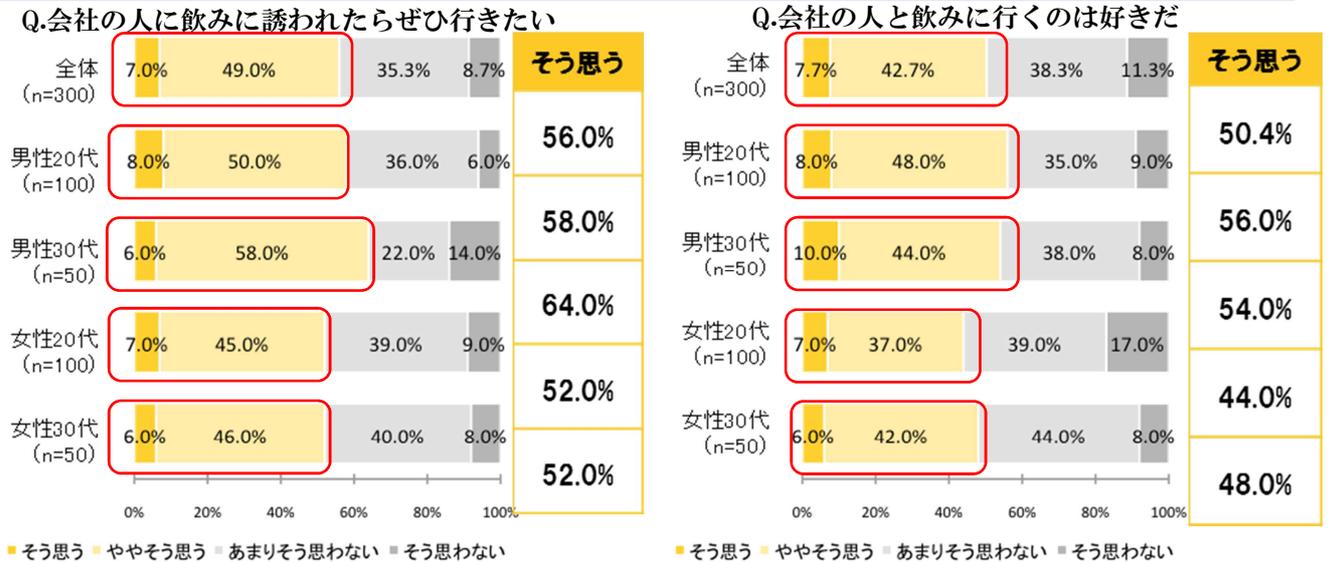
ここからは、“会社飲み”について聞いていきます。

「会社の人に飲みに誘われたら、ぜひ行きたい」という人は56.0%。「会社の人と飲みに行くのは好きだ」も50.4%と、過半数が“会社飲み”に好意的です【グラフ4】。

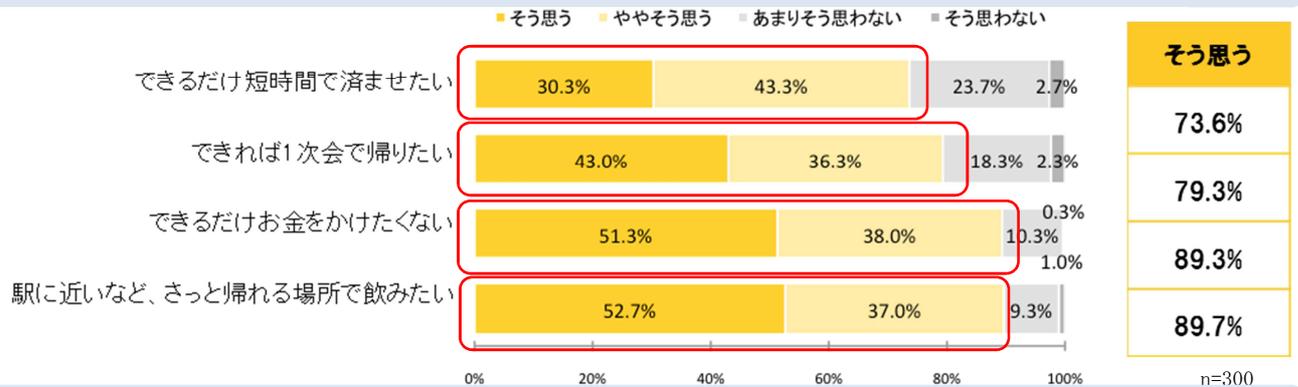
“会社飲み”についてさらに深彫りすると、「会社飲み」はできるだけ短時間で済ませたい(73.6%)、「出来れば1次会で帰りたい」(79.3%)、「できるだけお金をかけたくない」(89.3%)、「駅に近いなど、さっと帰れる場所で飲みたい」(89.7%)と、「安く」「駅近」「短時間」の飲みへのニーズがあるようです【グラフ5】。“会社飲み”は好きだけれど、安近短志向のようです。

ちなみに、「時短」を念頭において仕事をしているかを聞くと、81.3%が時短派【グラフ6】。このような仕事に対する“時短”意識が、“飲み”の傾向にも反映されているのかもしれませんが。

【グラフ4】 “会社飲み”への考え方



【グラフ5】 “会社飲み”への考え方



【グラフ6】 時短を念頭において仕事をしているか



“会社飲み” への考え方

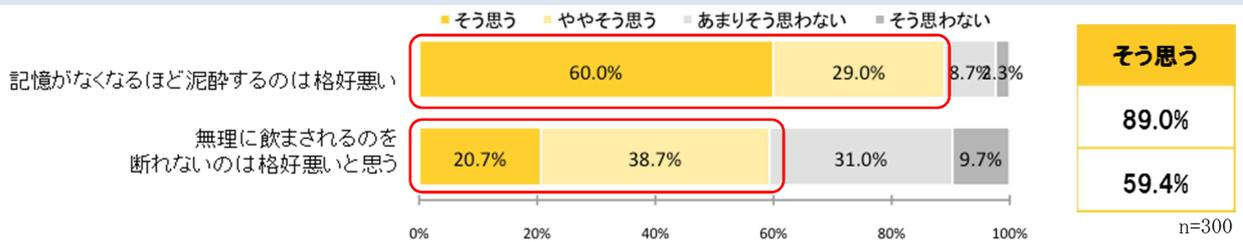
付き合い酒での深酒・泥酔はグサイという認識

気持ちよくサクッと酔いたい

“会社のみ”に限らずお酒や“飲み”全般について意識を聞くと、「記憶がなくなるほど泥酔するのは格好悪い」(89.0%)、「無理に飲まされるのを断れないのは格好悪い」(59.4%)という回答が多く、今どきの若手ビジネスパーソンの中で飲み過ぎは格好悪いという認識が強まっていることが分かります【グラフ7】。実際、“会社飲み”で先輩社員を見て「ああはなりたくない」と感じたエピソードとしても、酔った上での失言や醜態をほとんどの人があげています【表1】。

泥酔するまで飲まず、サクッとほんのり酔って帰る、というのが若手ビジネスパーソンのトレンドのようです。

【グラフ7】 “飲み” への考え方



【表1】 会社飲みで先輩社員を見てああはなりたくないと思ったエピソード

- ・下ネタで女子社員をドン引きさせていることに気づかず、まわりにフォローされて事なきを得たかと思った直後に同じネタをふっていた先輩。(女性 24 歳・京都府)
- ・泣き上戸なのか、途中で色々不平不満を言い出して号泣しだした女性の上司がいて、こうはなりたくないと思った。(29 歳男性・大阪府)
- ・電車の中で嘔吐した上司。一緒にいた役員レベルの人たちが周りに謝りながら処理。翌日とても気まずそうだった。(26 歳女性・山形県)
- ・先輩が「俺なんて会社にいない方がいいんだ」などと、それを否定して欲しくて言った発言を多くした挙句、トイレにこもってしまい、対応が面倒だった。(女性 23 歳・茨城県)
- ・上司が泥酔して男性にキスをしていた。(35 歳女性・東京都)
- ・飲みすぎてテーブルで吐いていた。他の人に迷惑なので、ちゃんと自己管理できないといけなと思った。(30 歳女性・奈良県)
- ・自分の武勇伝を延々と話しているのを見て、過去の栄光を語られるのはキツイから、自分はその様にはなりたくないと思う。(38 歳男性・埼玉県)
- ・同僚や部下の愚痴ばかり言っている上司。お前も、定時に出勤して働けと言いたくなった。(38 歳女性・東京都)
- ・上司と二人で飲みに行った時、小さな会社なので経営者の悪口を二人で言ったのは良いが、経営者のプライベートことまで持ち出して愚痴られた。関わらなければ関係ないことなので、知りたくない話だったし、良い大人の上司がぐちぐちいう姿も格好悪くて不快だった。(35 歳女性・東京都)

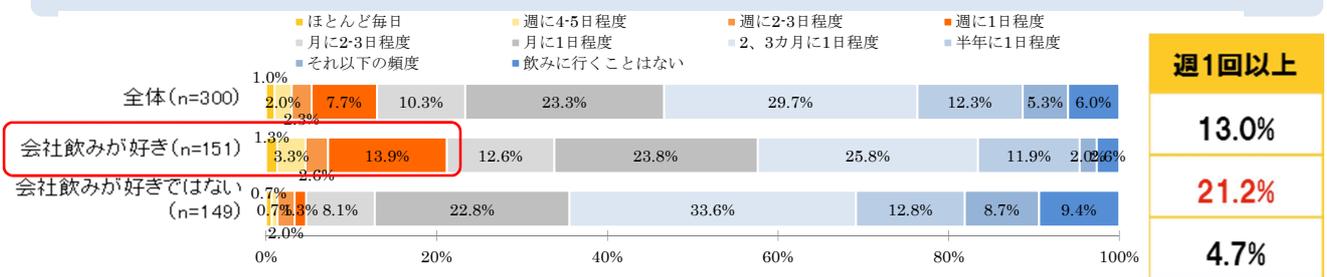
“会社飲み”への考え方

“会社飲みが好き”な人ほど、お酒頻度は高め
だから、ヘルシー基準でお酒を選ぶ傾向に

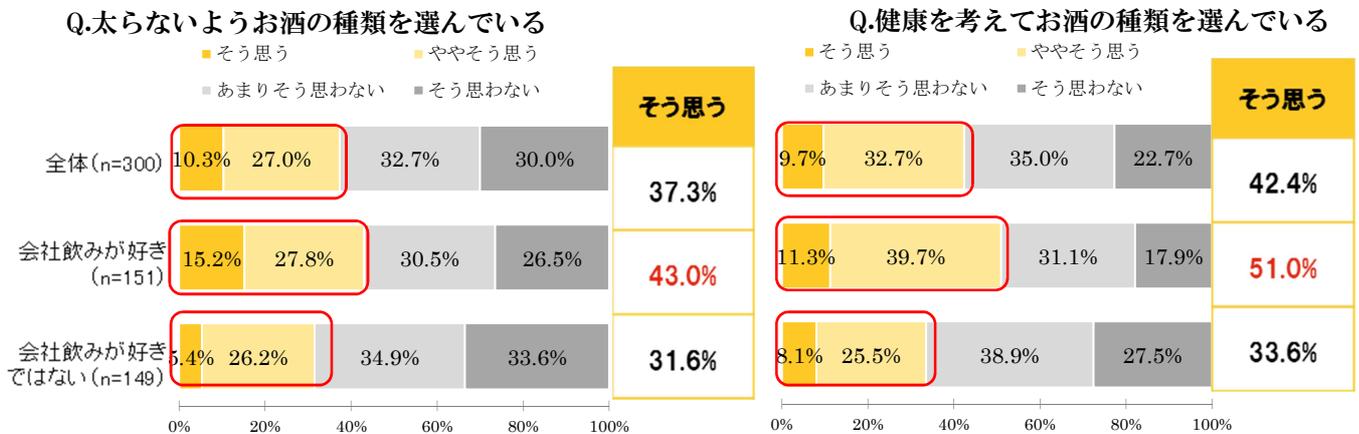
“会社飲み好き”がどのような傾向にあるのかを見てみると、「会社の人と飲みに行く頻度」は当然ながら“会社飲み好き”の方が高めで、「週に1回以上」飲みに行く人の割合は、“会社飲み好き”が21.1%に対し、そうでない人は4.7%と、大きな開きが出ています【グラフ8】。

飲みに行く頻度が高いためかヘルシー志向が高く、「太らないようにお酒の種類を選んでいる」（会社飲み好き：43.0%、そうではない：31.6%）、「健康を考えてお酒の種類を選んでいる」（会社飲み好き：51.0%、そうではない：33.6%）と、「太らないこと」や「健康」を考えお酒を選ぶ傾向が顕著です【グラフ9】。前述（グラフ3）の通り20代男性の約半数が「健康を考えて」（47.0%）お酒の種類を選んでいることから、会社飲みが好き若い男性が、健康をしっかりと考えていることが分かります。

【グラフ8】 会社の人と飲みに行く頻度



【グラフ9】 飲みに行くことについての考え方—ヘルシー志向 <Q1-14、15>



“会社飲み”のメリット

“会社飲み”は、社内コミュニケーションを円滑にするメリットが
新入社員も会社に慣れるのに“飲み”が効果的と実感

「誘ってもらおうれしい」(76.0%)！

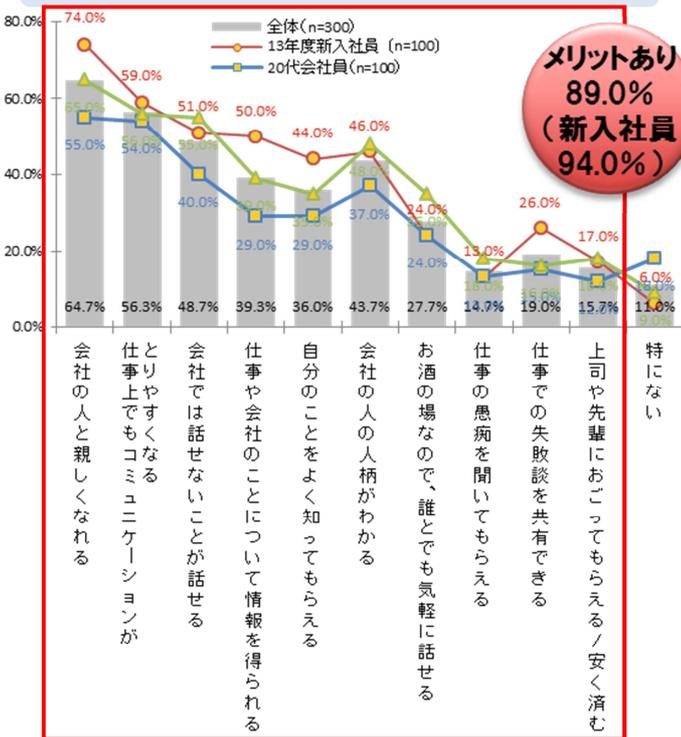
会社の人と飲みに行くメリットとしては、「会社の人と親しくなれる」(64.7%)、「仕事上でもコミュニケーションがとりやすくなる」(56.3%)、「会社では話せないことが話せる」(48.7%)、「会社の人の人柄が分かる」(43.7%)などがあげられました。特に新入社員は「会社の人と親しくなれる」と74.0%もの人が実感しています。何らかのメリットを感じている新入社員は94.0%にものぼります【グラフ10】。

新入社員に“会社飲み”でうれしかったことを聞くと、「普段会話の少ない人と話せる」という意見が多数あげられ、社内コミュニケーション上のメリットが大きいことがうかがえます【表2】。

また、新入社員の約8割が「会社に慣れるのに“会社飲み”が役立つ」(84.0%)、「会社の人に飲みを誘ってもらおうれしい」(76.0%)と“会社飲み”の効果を感じているようです【グラフ11】。

仕事からみのつきあいをあまり好まないと言われるクールな今どきの若者ですが、“会社飲み”に対しては、意外なほど、とても肯定的です。

【グラフ10】 “会社飲み”のメリット

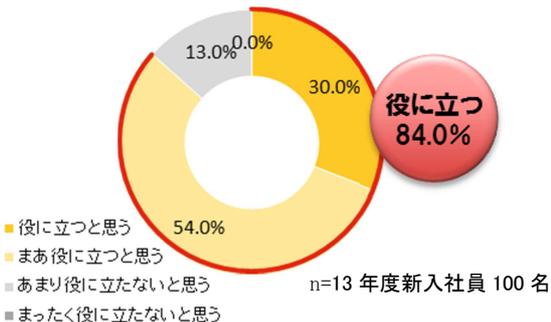


【表2】 会社の人と飲みに行った際、うれしかったこと

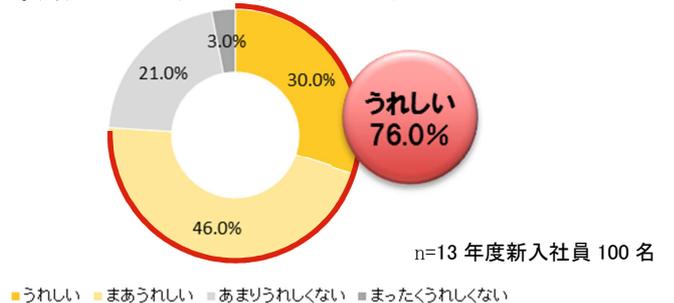
- ・入社して1週間くらいした時の飲み会で、常務が新人の自分たちにとっても気をかけてくれた。(24歳男性・富山県)
- ・会社ではあまり話せなかった先輩とも仲良くなった。(24歳女性・岐阜県)
- ・同期との仲を深めることが出来たこと。(男性 22歳・滋賀県)
- ・飲みを誘ってくれ、相談を聞きいてくれることで気にかけてもらえていると感じることがうれしい。(23歳男性・埼玉県)
- ・あまり関わりのなかった上司に普段の仕事ぶりをほめられた。そこまで見ていてくれるとは思ってなかった。(22歳女性・岡山県)

【グラフ11】 飲みに行くことについての新入社員の考え方 <Q25、Q26>

Q.会社の人との「飲み」の場は役に立つ



Q.会社の人に飲みを誘われたらうれしい



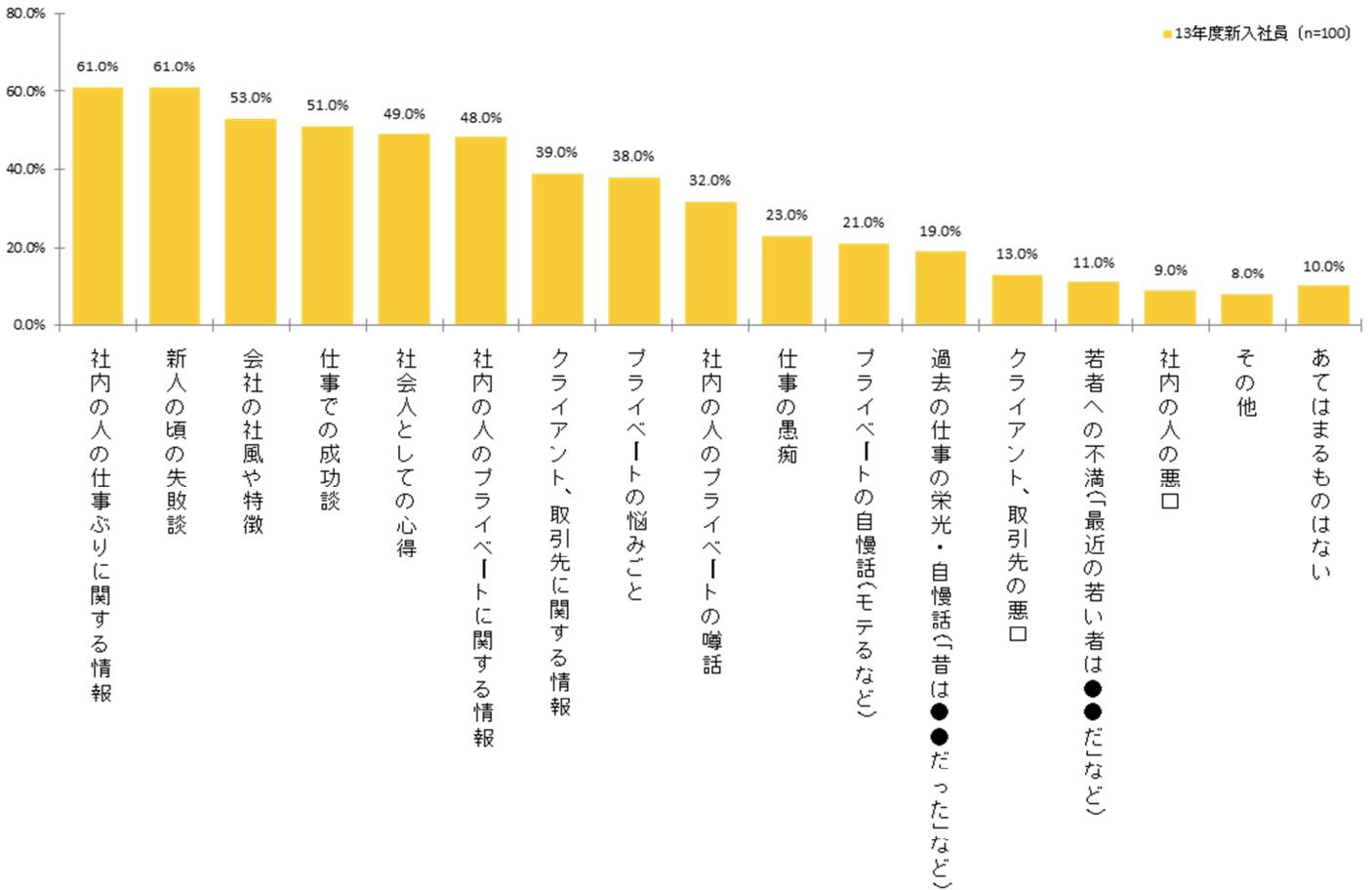
“会社飲み”のメリット

新入社員が聞きたいのは、「会社の情報」「仕事の失敗・成功談」。

先輩の話なら、愚痴やプライベートの話も歓迎!?

新入社員が会社の人と飲みに行き聞きたい話は、「社内の人の仕事ぶりに関する情報」(61.0%)、「新人の頃の失敗談」(61.0%)、「会社の社風や特徴」(53.0%)、「仕事での成功談」(51.0%)といったビジネスに役立つ話に加え、「仕事の愚痴」も4人に1人(23.0%)、さらには「プライベートの悩み事」も約4割(38.0%)と、一見会社飲みでは敬遠されそうな話題もありという人が意外に多いという傾向が明らかになりました【グラフ12】。

【グラフ12】 “会社飲み”で上司や先輩社員から聞きたいこと

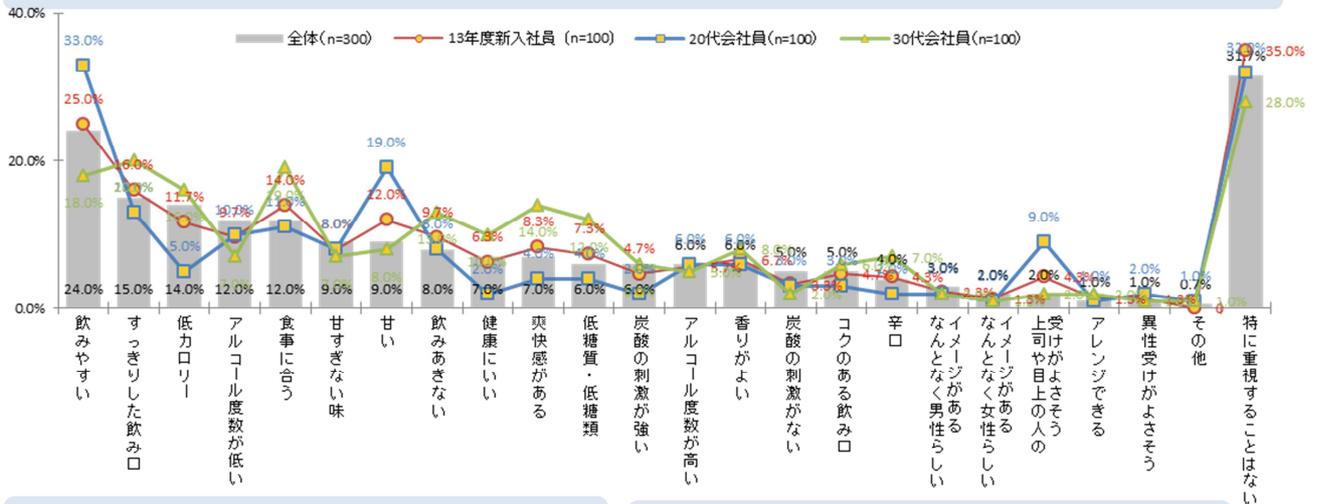


お酒の嗜好

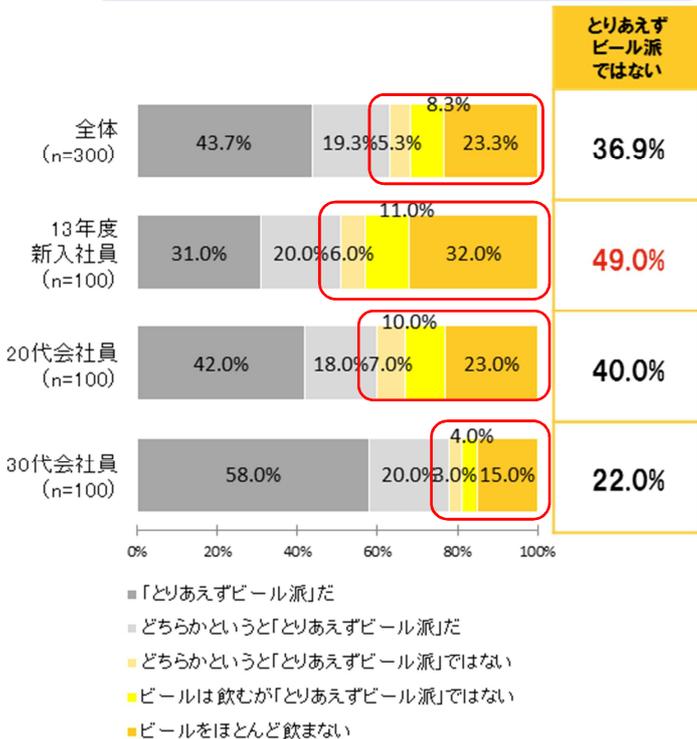
お酒の嗜好は「すっきり」、「飲みやすく」、「食事に合うこと」。

36.9%が「“とりあえずビール”じゃない派」。新入社員の3人に1人は「飲まない」。お酒についての重視点を聞くと、現在重視しているのは、「飲みやすい」(25.0%)、「すっきりした飲み口」(16.0%)、「食事に合う」(14.0%)、「甘い」(12.0%)、「低カロリー」(11.7%)の順でした【グラフ13】。自分を「とりあえずビール派」だと思う人は63.0%で、残りの36.9%はとりあえずビール派ではありません。新入社員の約半数は「とりあえずビール派ではなく」(49.0%)、3人に1人は「ビールをほとんど飲まない」(32.0%)と答えています【グラフ14】。とりあえずビール派ではないと答えた人(111人)に、その理由を聞くと、「味が好みではない」(76.6%)がダントツで、「すぐにお腹がいっぱいになる」(17.1%)、「食事に合わない」(8.1%)などが、とりあえずビールを飲まないのが飲まない理由となっています【グラフ15】。

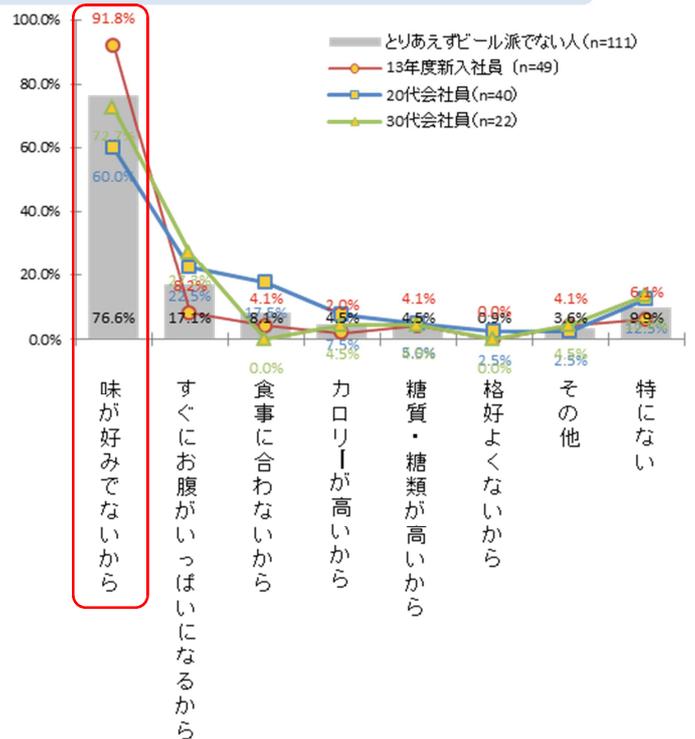
【グラフ13】 現在のお酒を選ぶ際の重視点



【グラフ14】 とりあえずビール派か <Q31>



【グラフ15】 取りあえずビールを飲まない理由



PRESS RELEASE

2013. 7. 03



■引用・転載時のクレジット表記のお願い

※本リリースの引用・転載は、必ずクレジットを明記していただきますようお願い申し上げます。

<例>「インターネット調査のネオマーケティングが実施した調査結果によると・・・」

■「アイリサーチ」

URL : <http://www.i-research.jp>